

あつめよう

“ 農地集積でより良い営農を築こう ”



飯島地区の生産組織による牧草の刈取り作業風景

農地集積に関する各地の主な行事等

- 大河原地方農地集積指導チーム : 8月25日 農地集積活動計画検討会を実施
- 仙台地方農地集積指導チーム : 7月7日～15日 第1回農地集積戦略会議を実施
- 北部地方農地集積指導チーム : 7月8日～17日 第1回大崎地域農業農村活性化推進会議を実施
- 栗原地域農地集積指導チーム : 7月22日～24日 第1回農地集積戦略会議を実施
7月31日 北部管内農地集積担当者研修会を実施
- 登米地域農地集積指導チーム : 8月6日～7日 第1回農地集積推進戦略会議を実施
- 東部地方農地集積指導チーム : 7月28日～29日 第1回農地集積戦略会議を実施
8月28日 集落営農育成に関する研修会を実施
- 農村整備課 : 7月6日～21日 管内別農地集積活動に関する打ち合わせを実施
7月14日 農地整備を契機とした農地集積推進研修会を実施
- みやぎ農業振興公社 : 農地集積に向けた農地中間管理事業制度の説明
- 宮城県土地連集積班 : 各事務所主催の戦略会議等へ参加

集積班(旧農地集積センター)

特集：おらほの担い手

1. 地区のようす

飯島地区は県の北東部に位置し、一級河川荒川(伊豆沼、内沼)とJR東北線に囲まれ、基幹産業は農業であり、複合型経営で営農の確立を目指しています。

また、水源とする伊豆沼はラムサール指定地であり、地域住民は一体となり自然環境と調和のとれた農業の推進に努めています。

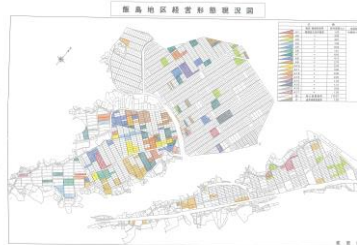
農地の大半は昭和10年代に10a区画で整備されたもので、農道は狭く、ほ場も分散されていて用排水路は土水路で、沼に接しており地下水が高く、冠水地域として営農に支障を来していました。

そのため現況の小規模水田を1haの大区画及び標準区画に整備するとともに、担い手や生産団体の育成を図り農地の流動化を促進しています。

担い手農家16戸の育成と生産組織4組織を設立し、地区を作業の中心とした農業機械の共用化と基幹作業の受託を促し、地区面積の63.0%を担い手等に集積し、農業機械等の過剰投資の抑制と有効利用により稲作農家の生産性向上を図っている地区です。



事業名：農地整備事業
(農山漁村地域整備交付金)
[旧：担い手育成型]
関係市町村：登米市
関係土地改良区：新田北部土地改良区
工期：平成10年度～平成28年度
受益面積：A=203.6ha
農家戸数：248戸
総事業費：3,875百万円
目標農地集積率：63.0%
H26実績集積率：62.8%



農地集積図 (現況)



農地集積図 (活性化目標)

2. 飯島地区の集積状況について

地区の集積は、H26年度に活性化計画を変更し、現在、個別担い手16戸と生産組織4組織により地区内の集積を進めています。経営を見ると個別担い手は全て水稻に専念し、生産組織は新規需要米としてWCS用稲を主体に水稻と加工用米を作付しています。

なお、H18年度以降の集積を見ると微増で推移し、H22年度から完了時の55.3%を超え、H26年度では目標時の63.0%にあと0.2%と迫っています。

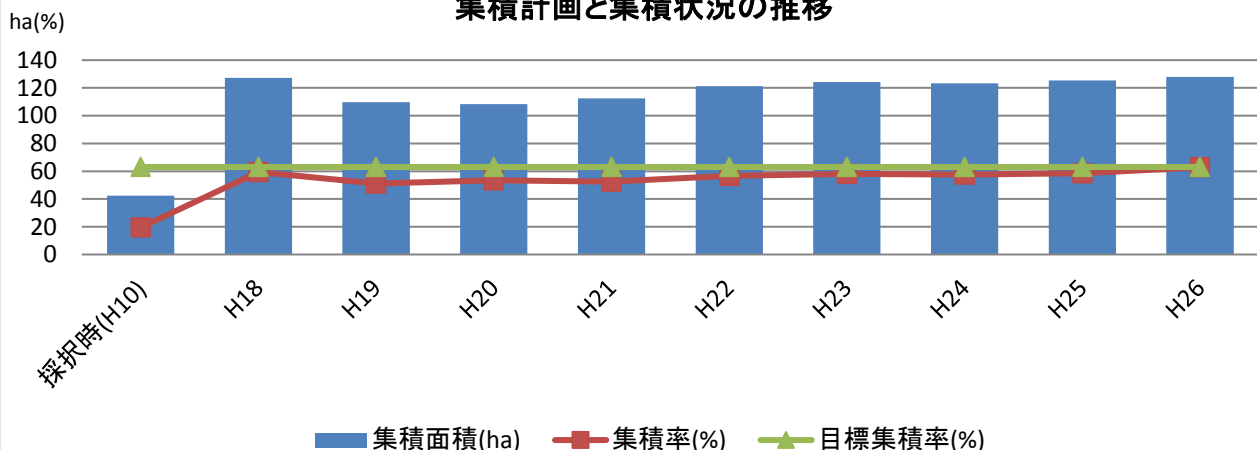


農地集積図 (H26実績)

(単位:ha/%)

年度	採択時(H10)	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26
集積面積(ha)	42.3	127.2	109.7	108.4	112.4	121.2	124.2	123.2	125.4	128.0
集積率(%)	19.5	59.4	51.2	53.5	52.5	56.6	58.0	57.5	58.6	62.8
目標集積率(%)	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0	63.0

集積計画と集積状況の推移



3. 飯島地区の担い手について

□担い手数と地区内の経営面積(目標)

担い手名	地区内 (ha)	権利別内訳(ha)				地区内 作物	認定 農業者数	備考
		所有権	利用権	農地法3条	農作業受託			
個別16戸	96.2	40.8	22.2	0.0	33.1	水稻	14	
生産組織4	32.1	0.0	0.0	0.0	32.1	水稻・飼料作物・WCS用稲		
計	128.3	40.8	22.2	0.0	65.2		14	

飯島地区が採択された当時の目標は、全体の農用地面積219.1ha(現在は203.6ha)を個別担い手12戸と生産組織3組織により139.3ha、率にして63.6%を集積する計画でした。
その後、数回に亘る担い手の見直し等を行い、現在の担い手ができました。
特に生産組織は、参加農家3~8名、オペレーター数2~3名で、地区内の平均耕作は2.92ha(経営面積3.27ha)となっています。

4. 生産組織の概要

(1)コントラクター飯島

- 参加農家:7人
- オペレーター数:3人
- 経営等農用地面積:10.18ha(目標)うち地区内8.98ha ※H26実績15.67haうち地区内14.96ha
- 対象作物(計画):水稻・飼料作物・WCS用稲

(2)茂栗農業生産組合

- 参加農家:8人
- オペレーター数:3人
- 経営等農用地面積:9.59ha(目標)うち地区内9.59ha ※H26実績8.58haうち地区内8.58ha
- 対象作物(計画):水稻・飼料作物・WCS用稲

(3)MOSファーマー

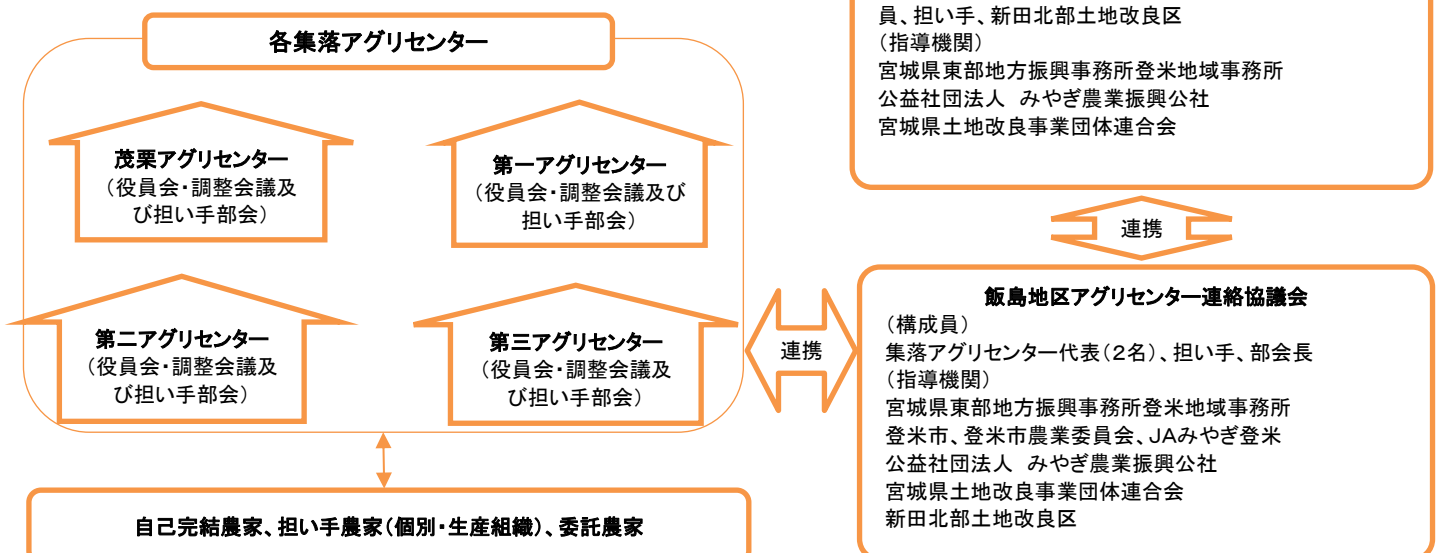
- 参加農家:3人
- オペレーター数:2人
- 経営等農用地面積:6.68ha(目標)うち地区内5.18ha ※H26実績9.19haうち地区内6.49ha
- 対象作物(計画):飼料作物・WCS用稲

(4)品ノ浦エコファーム

- 参加農家:5人
- オペレーター数:3人
- 経営等農用地面積:9.52ha(目標)うち地区内8.38ha ※H26実績15.12haうち地区内13.55ha
- 対象作物(計画):水稻・飼料作物・WCS用稲

5. 推進体制

地区内の土地利用と集積は次の体制によって図られています。



6. 新たな取組と地域活動

- ① 昨年度、宮城県から農地中間管理事業モデル地区として指定を受け、「農地整備事業」と「農地中間管理事業」との連携をめざし関係機関の協力を得ながら土地改良区が中心となって集落座談会等を開催し、制度の周知徹底を図り、出し手の掘り起しによって、地域集積協力金の確保と担い手への農地集積に向け、アグリセンターと担い手等も一体となって取り組んでいます。
- ② また、地域活動として、土地改良区の間接的な経費負担軽減にも繋がる、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため地域の共同活動として、H19年度から「農地・水保全管理支払交付金」にも積極的に取り組んでいる地区です。

7. 担い手の作業風景と多面的機能活動写真



< 転作地への肥料散布作業 >



< 発芽促進のための転圧作業 >



< 農地・水保全管理活動：水路の草刈り作業 >



< 農地・水保全管理活動：施設の点検作業 >



< 田んぼの学校：小学生による田植え作業 >



< ラムサール指定地の伊豆沼の蓮 >

【問い合わせ先】

水土里ネットみやぎ（宮城県土地改良事業団体連合会）

換地部集積班（旧農地集積センター）

〒980-0011

仙台市青葉区上杉二丁目2番8号 TEL:022-263-5815 FAX:022-268-6390

【ホームページURL】<http://www.mlw.or.jp/center/>